

# お産&子育てサポート

発行・編集  
お産&子育てを支える会  
代表 齊藤 智 孝  
編集者 東 直 美  
TEL 090-7103-2240



## 「人工妊娠中絶薬」 やっと 承認 される!

「人工妊娠中絶」その言葉はおおっぴらに言えないタブーがありませんか?授かった尊い命を、生きようとしている命を、何らかの事情により奪ってしまう行為とも言えます。事情も色々ですが、罪悪感を抱くような後ろめたさを感じるのは仕方の無い事かもしれません。しかし、それはその行為を受ける女性が抱く思いであり、命の元の精子の提供者である男性はどれだけ女性と同じような思いを抱くでしょうか?男性が女性と同じような痛みや辛さ、苦しみ、羞恥を感じる事はほぼ無いのです。理不尽です。

日本では人工妊娠中絶は子宮の中の受精卵(命)を柄の長いスプーンのような器具を用いて手探りで掻き出す、「掻爬(そうは)」という手術を受けるのでした。それは非常に野蛮で危険な処置だと1988年に中絶薬が開発されてからは先進諸国から非難されていたのです。しかし、英国の製薬会社ラインファーマが2021年12月に厚生省に人工妊娠中絶のための飲み薬(経口中絶薬)の承認申請を出したことがきっかけとなり、やっと今年4月21日に国内で初めて承認される方向になりました。飲む中絶薬は、1988年に世界で初めて承認され、現在は80以上の国・地域で使用されており、30年以上の遅ればせながらと言った状況です。

これによって中絶(掻爬)を受ける女性の痛みや辛さ、苦しみ、羞恥が少なからずも無くなったと、安堵したのは束の間、ネットや新聞記事を読んでも、いろんな条件付けや危険性が表示されており、一步も二歩も引いてしまいました。例えば、内服薬対象者は妊娠9週までと対象制限があるようです。最終月経の始まった日から妊娠週数はカウントするので、性交をもった日からカウントすると、定期的に28日周期で月経が来る人であれば7週間しか猶予がありません。間違わないで下さい。そして、中絶薬の失敗率はおよそ8%で、人工妊娠中絶手術よりも高確率で失敗する、中絶薬は大量出血といったリスクの他にも、異所性妊娠の場合は卵管破裂などの可能性があるため、入院して医師の監視下のもと使用されるべき、また、自己判断で中絶薬を服用し、救急搬送されたとしても、適切な処置をスムーズに受けられない可能性もある等々、危険性がアピールされています。その内容は間違いではないのですが、従来的人工妊娠中絶術(掻爬)がいかに安全で効果的であったかを感じてしまいます。今までの中絶術の手探りによる掻爬で子宮への損傷や異常出血が皆無ではなく、将来的な不妊の原因の可能性もなきにしもあらずと危険性があるにもかかわらずです。日本の中絶技術は熟練され高度であると詠っている記事もあったような・・・苦笑してしまいそうです。



全ての妊娠が幸せであってほしいのですが、それが望まれない場合に中絶の選択に迫られた時、今までの「医療の遅れ」がやっと改善され、内服薬が承認されて中絶方法を選択できる「女性の権利」が得られたのだと考えたいです。ある意味女性にとって朗報だと思います。



## 幸せなお産が お母さんと 赤ちゃんをつなぐ!

~~~~○助産師の思い~~~~

「一人目は住んでいた所の近くだし、友人達もそこでお産したのでと言う理由でクリニックでお産。ひどいお産で、二度とお産はしないと夫婦で決めていた。三日三晩前駆陣痛で眠れてなくてヘロヘロ状態で入院。入院後も進みがゆっくりで夫婦で放置され、疲労困憊の極みの中、夫が「もうやばい、これは産めない」と判断しナースコール。結果吸引分娩となった。出産後もおっぱいのやり方なんて習わずに「ミルク足して」と言われ、また放置。誰も来てくれないなら家にいるのと一緒やと「早く退院させてくれ」と談判し早めに退院。毎日毎日、1年間泣いて過ごして、その間の記憶が無い。夫が心配して職場から昼夜帰ってきてくれて母児共生き延びた。玄関で母児で泣きながら夫を待っていることすらあった。おっぱいは吸われると気持ち悪く吐きそうになり、



授乳を考えるだけでご飯も食べれず、そんな自分がまた嫌だった。その子が4歳。今も乳首を触られるのは嫌で、変な顔しない事に必死になっている。」とMさんが話されたことです。そして、今回出産後のおっぱいがどうなるか、1人目と同じようになっていたら・・・と心配されていましたが、産後ずっとおっぱいを吸われているのに嫌そうにされないお母さんに、「あれ？何が違うの？」と聞くと、しばらく沈黙して考えた後、ひとこと「お産が違う。」お産が幸せでないといけないと心から思ったそうです。母乳分泌にはプロラクチンというホルモンが関係していますが、それよりもお母さんの気持ちが大事、お産でその人を全肯定して、お母さんと赤ちゃんを繋いでいく、そんなお産を守っていきこうと今回のお産に関わって思いました。(O助産師記)



マイ助産師 Oさんへ



とにかく本当に楽しく愉快的日々でした。妊婦健診は友達に会いに行く感覚だし、医大(連携医療機関)受診時も待ち時間はO助産師さんとずーっとしゃべっていられるし、私はラッキーだと思っています。

この産前産後ずっと大切に想い動いてくれている家族、そしてO助産師さんに出会え、幸福感で育児に向かいあえるのは自分の力で産んだことが全て出なく、伴奏してくれたのがO助産師と出逢ってから重ねた月日がそう思わせてくれていると思います。

お産子の助産師さん達にも同じ事が言えます。

どんぶらこ～と揺れ動く私の気持ちにいつもプラスに流れる言葉をかけ続けてくれて、ひたむきに励ましてくれて。朝比奈先生の講演で「担当助産師と妊婦さんは半年は必要」とおっしゃってた意味が私には凄く理解できた。私は本当に深く濃いやりとりをしていたからこそ、互いを理解し、私はラクでした。教わることもいっぱいあって、信じることに、感じることに、ありのままにいて、祈ること・・・。

お腹にいる時から(家族の)メンバー入りしていたKAとは、お陰で今何を伝えているのか解る気もするし、「おかん大好き」と伝えてくれていると思うと、笑えて育児もできている。全部O助産師さんに教わった事です。いつも全力、手間暇かけてくれる、それだけでもう心がいっぱい満たされる、そんなトツキトウカでした。

人生を変えた何もかもが初めての助産院のお産は、O助産師さんとの出逢いが全ての始まりだと思っています。私のみならず、M家男性陣2人のこともよく理解し、KAのことは勿論全て包み込んでくれました。

いつもお母さんでいてくれて有り難う」「KO(上の子)らしく育ててくれて有り難う」その言葉に何度も救われ、幸せに思う日もありました。大きな懐と全身全霊な姿、私たちは忘れません。



初めてのお産や子育てがトラウマとなり「もう二度と妊娠出産はイヤダ！」と痛感される方が時々いらっしゃいます。Mさんもそうでした。苦しみ苦しみ4年間を過ごされたのでしょうか。そんな状況での妊娠。悩み迷いながら助産所の門を叩かれ、O助産師との出逢いで彼女は救われたのでした。多くのお産を扱う医療の現場では1人1人の妊婦さんにゆっくり寄り添うことは現実困難です。しかし、もしもの時に安全最優先で医療機関を選択されるのは、納得の選択で良いでしょう。ですが、助産所の存在やお産ができることも知らずに、ただただお産は医療機関しか無いと思っておられる方もいると思います。自分がどんな妊娠期間を過ごし、どんなお産を望むのか考え、リアサーチしてみてください。お産のあり方がMさんのように子育てまで影響してしまうのは少なくありません。我が子をお愛してあげたいと思いつつも感情を意識的にコントロールしないと難しい、苦しい



想いを抱きながらの子育ては辛いと思います。そうならないように、妊娠中でも産後でも、気づいた時にお産子の家を訪ねてください。出産が医療機関でも大丈夫ですから。ご希望に添った伴奏支援をさせていただきます。妊娠中、出産、産後の不安や疑問を一緒に解決しましょう。一人で苦しまないで！地域の助産師が待っています。

5月の お産子の家の予定 (\*1日～7日は休みです)

- 9日(火) 10:30～お産子マミーハウス・10:00～鍼灸の日
- 11日(木) 10:30～ぬぬの日
- 12日(金) 10:30～こそだてバンザイ「赤ちゃんとの遊び」
- 13日(土) 13:30～しあわせお産相談会
- 14日(日) 7:00～太郎坊に登る会
- 15日(月) 10:30～バランスボールレッスン
- 16日(火) 10:30～産後セルフ整体トレーニング・13:00～産後編
- 18日(木) 11:00～発酵食ランチの会
- 19日(金) 10:30～ベビーマッサージ
- 20日(土) 13:30～お産塾「出産編」
- 27日(土) 13:30～ママパレレッスン近江八幡ハチパチ広場にて

おっぱい塾の予定

- 16日(火) 10:15～近江八幡はちばち広場
- 22日(月) 10:00～お産子の家
- 23日(火) 10:00～水口まる一む和室
- 25日(木) 10:00～安土コミュニティーセンター

申し込みはこちらより

5月27日(土)12:30～14:30

「迷惑を掛け合える関係を目指して」黒岩秩子さん  
場所：安土コミュニティーセンター・参加費無料  
お問い合わせ：安土わくわくおっぱい塾

